

●トラック1 二人の王子様

・時系列

グロウ19歳

ヴィスク18歳

1作目『眠り姫の憂鬱』の半年ほど前。

ヒロインが覚めない眠りについてから三年半が経過している。

ヴィスクはまだヒロインを犯しておらず、「自分の正義と潔白」を心から信じている。

一方グロウは「自分のせいでヒロインが眠りについた」ことを自覚している。

そのため、慈善活動としてヒロインを養子として引き取ることを両親に打診したグロウだが、ヴィスクをはじめとする孤児院の子供たちの抵抗によって計画は流れてしまう。

それ以降も、グロウがヒロインに近づかないように細心の注意を払っていたヴィスクだが、ある日、グロウは孤児院の職員に金を握らせ、ヴィスクをヒロインのそばから引き離すことに成功。

しかしヒロインにキスしたところをヴィスクに目撃され、殴られ、追い返される。

場所…ヒロインの部屋

時刻…夜（屋内なので虫の音とかなくて大丈夫です）

【グロウによる絵本の朗読。ぶっきらぼうで傲慢な貴族のぼっちゃん感があるとよいと思います】

【3】

グロウ「昔々、あるところに、

決して目を覚まさないお姫様がいました。

お姫様は眠っている間、少しも歳をとらなかったのですが、周りの人々はどんどん歳を取っていきます」



1 【3】
2 グロウ「困った王様は、お触れを出しました。
3 “姫を目覚めさせた者に、姫との結婚を許す”と。
4 【悔りの失笑】……っは」
5
6

SE 本を閉じる

7
8 グロウ「孤児院の連中も、哀れなものだな。
9 眠り続けるお前のために、
10 おとぎ話を読む事しかできないとは」
11

12 グロウ【ため息をつき】粗末なベッドに、粗末な服……
13 どれも、お前にふさわしくない」
14

15 グロウ「私なら、お前をもっと大切にしてやれる。
16 世界中から医者を集めて、
17 お前を目覚めさせてやれるのに」
18

19 グロウ「あれから三年だ、オーリ。
20 お前が愛する孤児院のクズどもは、
21 じりじりと壊れつつあるぞ。
22 ヴィスクなど、特にひどい。
23 朝から晩まで、お前の存在に捕らわれて……
24 お前を傍に置いておくためならば、
25 やつは人すら殺すだろう」
26

27 【3】
28 グロウ「孤児院を出たハーランは、
29 いかにも低俗な商人らしい、
30 怪しげな連中とつるんでいるぞ。
31 パストルは邪悪な人体実験で有名な医師に引き取られた。
32 それでも、お前は眠り続けたままなのか」
33
34

1 【1 ヒロインを覗き込む】
2 グロウ「お前は……」

3 【言いよどみ】私を罰しているのか？」

4
5 グロウ「なら、もう十分だ。

6 どうか、愚かだった私を許してくれ。

7 お前の気を引きたかったんだ。

8 だが……」

9
10 グロウ【震えて】嘲笑されるのが恐ろしくて、

11 わざと憎まれるようにふるまった。

12 私は……美しい男ではないから……」

13
14 グロウ「もう、幼稚なふるまいは終わりにする。

15 お前の子供たちも傷つけないと誓う。

16 私は——」

17
18 【3 耳元で】

19 グロウ【勇気を振り絞って】お前を愛してる」

20
21 【愛を囁いたあと、一瞬ヒロインの顔を見つめ、唇に軽くキスするグ
22 ロウ。そこで、急にドアが開く】

23
24 S E ドアガチャ

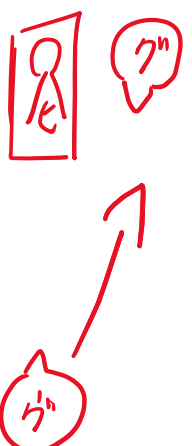
25
26 【はっとしてドアを見るグロウ。そこにヴィスクがおり、足早にこち
27 らに近づいてくる】

28
29 【3】

30 グロウ【うんざりしたように】ヴィスク……

31 もう戻ってくるとはな」

32
33 ヴィスク【殴る呼吸】
34



1 グロウ「【殴られる呻き】」

2
3 SE…顔を殴りつける音

4 SE…グロウが殴り倒される

5 SE…木製の椅子が倒れる

6
7 グロウ「つ……ぐ……はは……

8 挨拶もなく殴りつけるとは……！

9 私と、お前と——

10 もはやどちらが野蛮かわからんな」

11
12 【11】

13 ヴィスク「【冷え冷えと】オーリに触ったのか」

14
15 グロウ「お前には関係ない」

16
17 ヴィスク「関係……？

18 【ブチギレ】あるに決まってるだろう！

19 誰のせいになったと思ってる！

20 二度と俺たちに近づくな！」

21
22 【11 床で】

23 グロウ「威勢がいいのは結構なことだが、

24 私以外に追い払うべき相手が

25 いるんじゃないのか？

26 この孤児院の噂を聞かない日は一日とてないぞ。

27 何をしてでも抵抗しない、

28 都合のいい“人形”と遊べる場所だとな！」

29
30 ヴィスク「黙れ！

31 そんなうわさ、

32 町の連中が勝手にしてるだけだ。

33 俺たちには関係ない！」

34



1 【11 床で】

2 グロウ「そうであることを私も祈った。

3 だが実際に、

4 この職員に少し金を握らせてただけで、

5 私はやすやすとこの部屋に来られたぞ。」

6
7 グロウ「こんな状態で、

8 オーリをお前に任せてはおけない。

9 私が彼女を守る。

10 婚約者として迎え入れてな」

11
12 ヴィスク「黙れ！
13 黙れ黙れ黙れ黙れ！」

14
15 SE…もみ合い

16 SE…殴る音×5回くらい

17
18 グロウ【ヴィスクに顔を殴られる声×5】

19
20 【11 床で】

21 ヴィスク「はあ……はあ……はあ……

22 は……はは……あははははは！

23 でかい図体して、親からは剣を持たされて、

24 それでも俺に勝てないクセに、

25 何が「私が守る」だ！」

26
27 ヴィスク「貴族の肩書と、一族の金――

28 お前にあるのはそれだけだ。

29 それを使って、医者を呼んで、

30 その医者が全員ダメだったらどうする気だ？

31 眠り続けるオーリを、

32 婚約者として壁にでも飾るのか？

33 【吐き捨てる】お前ら貴族が狩りの獲物を、

34 剥製にするみたいに！」

1
2 グロウ「ごほ……う、ぐ……」

3 はぁ……はぁ……少なくとも……

4 お前よりは……ッ……

5 マシな剥製を……

6 【言う終わりにかぶせて殴られる】作るだろッうぐ！」

7
8 SE…殴る

9 SE…立ち上がる

10
11 【11】

12 ヴィスク「出て行け。」

13 オーリに会わせてほしければ、

14 お前の力で見つけてこい。

15 オーリを目覚めさせる方法をな」

16
17 SE…足音よろよろ

18 SE…ドア締まる

19
20 ヴィスク「深いため息」……痛って……。

21 あぁ……くそ、拳痛めてる……」

22
23 SE…木製の椅子引き寄せる

24 SE…椅子の軋み

25
26 【3】

27 ヴィスク「ごめんな。うるさくして。

28 【不安げに】でも、あいつが……

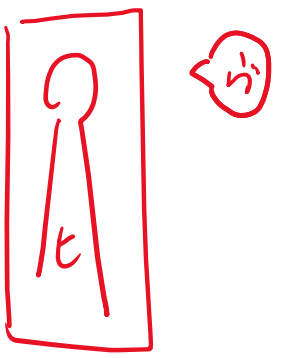
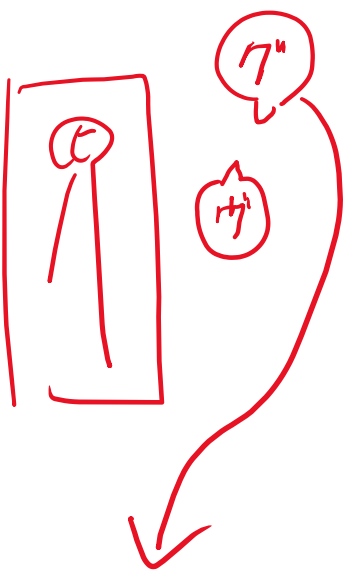
29 オーリのこと……

30 連れて行こうとするから……。

31 ……オーリだって、行きたくないよな？

32 あいつより、俺の方が……いいよな？」

33
34



1 ヴィスク「……ごめん。
2
3 こういう質問、嫌だよな。」

4 ヴィスク「深いため息」

5
6 SE…立ち上がる

7
8 ヴィスク「明るく」体、拭こうか。

9 今日は新しい服買ってきたんだ。

10 きつとオーリによく似合う。

11 なあ……早く目を覚ましてさ……

12 これ着て、一緒にいろんなところに出掛けよう。

13 ここじゃないどこか……

14 誰もオーリのことを知らないところにさ……

15 やりなおせるよ、ちゃんと。

16 オーリが目を覚ましたら、全部やりなおせるから」

●トラック2（グロウの独白） 枯れ谷の魔物

トラック1から22年後。
紆余曲折あり、ヒロインを目覚めさせることができたと思ふグロウ。
冒険家であり作家でもあるグロウの手記の体をとる。
独白のため、通常マイクで

SE…羊皮紙にペンで文字を書く

グロウ「私は疲れ果てていた。

二十五年の歳月は私の魂を摩耗させ、

気づけば呼吸をすることにも

苦痛を覚えるようになっていた。

彼女を目覚めさせる方法を見つけるまで、

決してあきらめないと誓ったあの日が、

随分と遠くに感じられる。

結局、私には無理だったのだ。

あの男の言う通り、私はあまりにも無力だった。

半ば死に場所を求めるような気持ちで、

私は世界の果てを目指して旅に出た。

そしてたどり着いたのは、荒涼とした枯れ谷だった。

まるで私の心を映す鏡のようなその場所に、

それは、ひっそりとたたずんでいた。

どうしてか、私はそれに問えばわかると思った。

どうすれば、彼女を目覚めさせることができるのかと。

問うた瞬間、私は気を失っていた。

そして次に目覚めたとき、すべてを理解していた。

私はついに見つけたのだ。

彼女を目覚めさせる方法を」

【感情を込めず】

グロウ「『グロウ・ベスクリフの手記「枯れ谷の魔物」』より抜粋」

●トラック3 おはよう眠り姫

ヒロインの目覚めを喜ぶグロウと、グロウからヒロインを取り上げる
ヴィスク。

「容体が安定するまでは病院に入院させ、その後は落ち着くまで、眠
る前に暮らした孤児院で保護する」と言われ、正当性のあるヴィスク
の主張に屈する形になるグロウ。

だが「貴様が彼女を傷つけたら奪いに来る」と言い残す。

場所…ヒロインの部屋

時刻…朝

【1 横たわるヒロインを上からのぞき込む】

グロウ「オーリ……私の声が聞こえるか？ 目を覚ませ、オーリ」

※フェードインの効果かけてください

【グロウの呼びかけで、25年の眠りから覚醒するヒロイン。ひどく混
乱している様子で、状況はつかめていない】

【1 11の方を見ながら】

グロウ「答えた……答えたぞ！

おい、医者を呼べ！
オーリが目覚めた！」

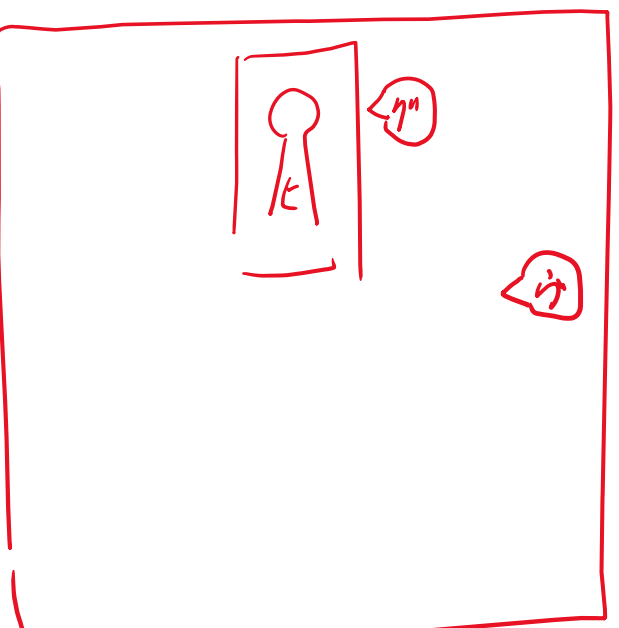
【11】

ヴィスク「そんな……馬鹿な……」

【1 ヒロインを見ながら】

グロウ「ほら、これを飲んで。

少し楽になるはずだから」



【ヒロイン「誰？」】

【1】

グロウ「分からなくて当然だ。

あなたが眠って、もう二十五年たつ。

私ももう四十だ。

十五だったころとは変わってしまった」

【ヒロイン「——“ふとっちょ”グロウ？」】

【ヒロインが自分を思い出したことに感動しつつ、過去の不名誉なあだ名を思い出して泣き笑いするグロウ】

グロウ「随分痩せただろう？

そんな、子供のころのあだ名……

あなたじゃなければ殴ってる」

【3 グロウを見て】

ヴィスク「グロウの肩をつかんで」馬車を呼んだ。
すぐにパストルの病院に連れて行こう」

【3 軽く部屋を見回して】

グロウ「パストルはどうした？」

ヴィスク「オーリが目覚めた瞬間、

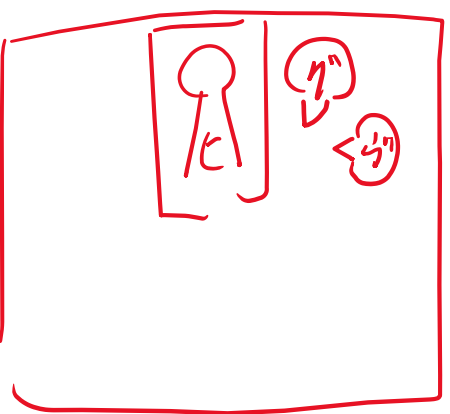
何も言わずに飛び出していった。

病院で受け入れの手配をするんだろう」

グロウ「ならば、私が馬車まで運ぼう。

っはは……見ろ、手が震えている。

今ならお前とも抱きあえる気分だ」



1 【3 グロウを見て】

2 ヴィスク「真剣に」グロウ……わかってるだろうが、
3 しばらくは入院させるぞ。

4 またいつ眠るかもわからない」

5
6 ヴィスク「目覚めた後も、環境に慣れるまでは孤児院で預かる。

7 ———それでいいな？」

8 (3)
9 グロウ「かまわないとも。

10 【ふと高圧的に】——随分と顔色がわるいな、院長殿。

11 恐れているのか？

12 私が彼女を目覚めさせたから、

13 彼女が自分のそばから離れるのではないかと、

14 気が気でない……といったところか」

15
16 ヴィスク「そんなことを気にしてると思うか？

17 彼女は二十五年間、

18 歳もとらずに眠り続けてきたんだぞ。

19 それが目覚めて……

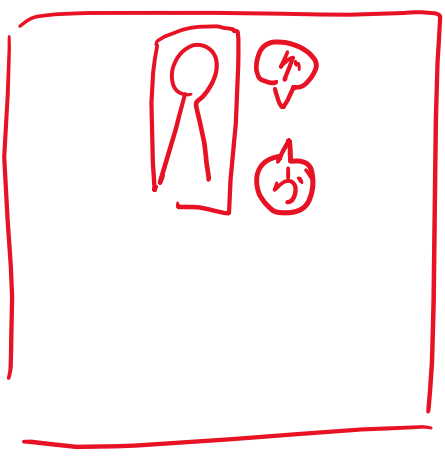
20 どうなるか不安に決まってるだろう。」

21
22 グロウ「かもしれんな。

23 ———だが、忘れるな。

24 貴様が彼女を傷つけたら、

25 今度こそ、私は彼女をさらいにくるぞ」



1 ■トラック4 目覚めの朝（13分〜15分）

2 再録のためこのトラックは読みません

3
4 トラック3の翌朝。ヒロインの部屋。

5 ヒロインがはつきりと目を覚ましたと報せを受けて、初めてまともにヒロイン
6 に挨拶にくるヴィスク。

7
8 S E ノック

9 S E ドアの音

10
11 ヴィスク「おはようございます。

12 お医者様から、目を覚ましたと聞いたので様子を見に……

13 今、少し話せますか？ 僕はこの孤児院の院長で――

14 【顔を見た途端、駆け寄ってくるヒロインにたじろぐ】

15 ――つとと！

16
17 ヴィスク「驚いたな……僕が分かるんですか？

18 君が眠ってから、もう25年です。

19 ただの知らないオジサンにしか見えなんでしょう？」

20
21 【ヒロイン「分かるよ、ちゃんと。でも、眼鏡はちよつと意外かも」】

22
23 ヴィスク「ああ……30代で急に視力が落ちたんですよ。

24 僕が眼鏡なんてイメージと合わないって、

25 パストルにも随分皮肉られました。

26 覚えてますか？ 絶対に笑わない、図書室の幽霊。

27 いつも君の膝の上で本を読んでもらっていた、

28 あの小さいパストルです】

29
30 【ヒロイン「忘れるはずないよ」】

31
32 ヴィスク「よかった。もし君に忘れられてたら、

1	あいつはきっと立ち直れないでしょうから。
2	医者になったんですよ、あいつ。
3	いつか自分がオーリを目覚めさせるんだって言って。
4	グロウに先を越された形になって、
5	かなりイラついてましたが……】
6	
7	
8	
9	
10	ヴィスク「目覚めてから昨日までの数日間、
11	君はパストルの病院に入院してたんです。
12	目覚めた直後の君は少し不安定で、
13	まだ夢うつつと言う感じでしたから】
14	
15	
16	ヴィスク「こうしてはつきり目を覚ました今、君の担当医は、
17	孤児院と契約しているおじいさんに変わりますけど。
18	——嫌ですか？
19	（少し探るように）これからも、パストルに診てほしい？」
20	
21	【ヒロイン「ううん。誰でも大丈夫】
22	
23	ヴィスク「よかった……パストルも、今や町で一番大きな病院の
24	院長ですからね。
25	中々気軽に診察を頼める立場じゃないんです。
26	もちろんあいつは、ずっと君の健康状態を
27	確認したくてしかたがないでしょうけど。
28	パストルのところには、今度改めて顔を見せるとして——
29	おいで、今の孤児院を案内します」
30	
31	S E 足音
32	S E ドア開閉
33	S E 足音
34	

1 ヴィスク「ふうん……それじゃ君は、二十五年間、

2 夢の世界で生きていた記憶があるんですね。

3 もちろん信じますよ。

4 眠ったまま食事もせず、成長もしなかった君が、

5 夢の中でどんな不思議な体験をしていても、

6 何もおかしくはありません。

7 それじゃあ、この孤児院は随分懐かしく感じるでしょう。

8 なにせ、二十五年ぶりだ。

9 昔に比べて、随分活気があるでしょう？

10 子供の数も職員の数も、当時の倍以上に増えてますからね」

11
12 【ヒロイン「ヴィスクが院長になったんだよね？」】

13
14
15
16 ヴィスク「そう、驚くべきことに、今は僕が院長です。

17 僕は18歳でここの職員になったんですけど……

18 下っ端としてあれこれ雑用を引き受けてるうちに、

19 いつの間にか」

20
21 【ヒロイン「そうだったん……ですネ……？」】

22
23 ヴィスク「うん？ どうしたんですか、急に敬語なんて——ああ、

24 僕が敬語だからか。

25 いいんですよ、オーリは昔のままで。

26 僕の敬語は、ほとんどクセみたいなのですから」

27
28 【ヒロイン「昔はよくイタズラとかしてたのにね」】

29
30 ヴィスク「ん、ぐ……！ ちょっと、オーリ……

31 職員や子供たちの前で、僕の昔のイタズラとかを

32 暴露するのは無しですよ……？

33 何をニヤニヤしてるんですか……！

34 今は子供たちのイタズラを叱る立場なんですから、
35 本当にダメですからね！」

1
2 【ヒロイン「ヴィスクって昔から、ちょっと大人ぶるところあるよね」】
3
4 ヴィスク「大人ぶっているわけではなく、
5 立场上威厳を保つ必要が……。
6 【気を取り直して】ダメですよ、そんな風にからかつても。
7 今は君より、僕の方が随分大人なんですから。
8 あんまりお痛が過ぎるようだ——。
9
10 S E 衣擦れ
11
12 【耳元で】
13 ヴィスク「たとえ君でも、少しお仕置きをしなければ」
14
15 【離れて】
16 ヴィスク「っは……！
17 冗談ですよ。でも、中々迫力があるでしょう？
18 心配しなくても、僕が子供たちに鞭をふるったことは、
19 今まで一度もありません」
20
21
22 ヴィスク「なのに子供たちの間では、〃院長先生の鞭は
23 めちゃくちゃ痛い〃という噂が、
24 まことしやかにささやかれている。
25 そうですね……君がその噂の最初の体験者に
26 ならないことを祈っていますよ。心から。【楽しそうに】」
27
28 【ヒロイン「ヴィスク、ちょっと性格悪くない？」】
29
30 ヴィスク「僕は昔からこういう性格です。
31 子供たちや職員には内緒にしますが、君にはもう、
32 どうせ全部知られてますから。
33 ——さて、そろそろ部屋に戻りましょうか。
34 何か欲しいものがあったら、

1 あとで部屋に届けさせますが――
2 何もない？ 本当に？
3 なんでもいいんですよ、ほら、例えば何か甘い物とか……」
4
5 【ヒロイン「じゃあ、仕事が欲しいかも」】
6
7 ヴィスク「――は？ 仕事!? ああ、いえ……。
8 その姿勢は素晴らしいと思いますけど、院でお願いできる
9 仕事は、
10 子供たちの遊び相手とか掃除とか、その程度の事で……」
11
12 【ヒロイン「そういうのじゃなくて、生活のためにちゃんと働きたい
13 の」】
14
15 ヴィスク「生活のためって……孤児院の外で働くってことですか……?
16 …?
17 お金のために？ そんな危ないこと、とても許可できません
18 っ」
19
20 【ヒロイン「許可って……仕事するのに、ヴィスクの許可がいる
21 の？」】
22
23 ヴィスク「そんな顔をしないでください。
24 意地悪で言ってるわけじゃないんです。
25 君は数日前まで昏睡状態だったんですよ？ 大丈夫。
26 焦って仕事をしなくても、突然君を放り出したりしません。
27 ここは居場所のない子供たちの帰る家です。
28 だから安心して、僕を頼って」
29
30 【ヒロイン「十七歳は子供じゃないと思うけど……ごめん、仕事を紹
31 介してほしいなんて、図々しかったよね。ちゃんと自分で仕事を探し
32 てる」】
33 ヴィスク「オーリ、そうじゃありません。仕事の紹介が面倒だとか、
34 そういう理由で許可を出さないわけじゃないんです。」

1 十七歳は子供じゃないかもしれませんが、僕から見れば、
2 十分に守られるべき子供なんです。とても放ってはおけな
3 い。

4 一年くらいは孤児院で生活して、仕事や住む場所は
5 もっとゆつくり見つけて行けば……」

6
7 【ヒロイン、適当に聞きながして立ち去ろうとする】

8
9 ヴィスク【焦って】オーリ、待ちなさい。僕の話ちゃんと聞くん
10 だ。

11 【叱りつけるように】オーリ！」

12
13 S E もみ合う

14 S E 壁ドン

15
16 【溜息をついたのち、耳元で】

17 ヴィスク「すみません、急に大きい声を出して。

18 僕みたいな長身の男に、こんなふうに壁におさえつけられ
19 たら、

20 女の子の君はきっとひどく怖いでしょう」

21
22 ヴィスク「——でも、君がこうさせた【少し責めるように】。

23 僕はずっと……目を覚まさない君を、ずっと守ってきた。

24 なのに、目が覚めたとたん、どこかに、行こうとするなん
25 て……」

26
27 【ヒロイン「わ、分かったから！ 耳元で喋らないで……！」】

28
29 ヴィスク「うん？ 耳元で話されるの、嫌ですか？

30 【マイク大丈夫そうなら息拭きかける】

31 はは……びくってなって、かわいいな。

32 ふうん……こんな反応、するんですね。

33 耳、昔から弱いんですって？ 覚えてないな……

34 もう随分昔のことだから。息を吹きかけるだけでそんな

1 じゃ、

2 もし舐めたりしたら、どんな風になるのかな？

3 少し、いたずらしてみましようか……」

4
5 S E もがく

6
7 ヴィスク「しい、しー。ほら、暴れないで。いい子だから。

8 君が悪いんです。僕の話聞かずに、逃げようとするから。

9 そんなに聞き分けの悪い耳には、少しお仕置が必要で
10 ね」

11
12 【1分ほど耳たぶかんだり耳舐めながら】

13 ヴィスク「くすぐったい？ いや？」

14
15 【耳にキスしながら】

16 ヴィスク「そんなに可愛い声を出したら、通りかかった職員に怪しま
17 れる。

18 ……声、我慢できませんか？ お仕置きなのに、

19 まさか感じてるんじゃないやありませんよね？【キスここまで】

20
21 ヴィスク「ああ、ダメですよ。そんなに唇を噛み締めて。

22 こんなに赤くなって、血が出そうだ。

23 ……オーリ？」

24
25 【ヒロイン、唇を噛み締めたまま泣く。我に返るヴィスク】

26
27 ヴィスク「あ……す、すみません、やりすぎました！

28 困ったな……泣くほど嫌でしたか？

29 分かってます。孤児院の院長が、こんなことすべきじゃな
30 かった。

31 こんな……どうして……

32 なんて謝ったらいいか……ッ【突き飛ばされる】

33
34 S E 突き飛ばす音があるといいなあ

1 SE 走り去る足音

3 ヴィスク「オーリ！【焦って追おうとして立ち止まる】」

6 【溜息】

7 ヴィスク「くそ……何をしてるんだ僕は……。」

8 こんなことがしたいわけじゃ、ないはずなのに……」

9 ※ヒロインが聞き得ないセリフなのでマイクかえる。

●トラック5 優しいひとさらい

夜。

図書室にいるヒロインをグロウがさらいに来る。

場所…図書室

時間…夜

SE…フクロウの声（時々流す程度で、常時一定の速度では流さない
てください）

SE ドアが開く

【背後からヒロインに忍び寄り、ひっそりと耳元で声をかけるグロウ】

【4 背後から】

グロウ「しい……大声を出さないで。

怖がらなくていい、私だ」

【ヒロイン「どうしてここに？」】

【1】

グロウ「本来なら、私も堂々と、

面会に来たかったが……

日中は院長殿の警備が厳しくてな。

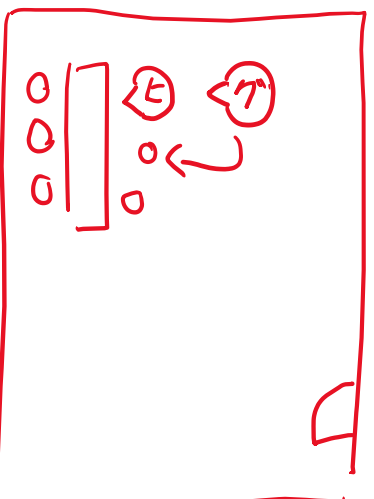
様子をうかがっていたら、

窓からあなたの姿が見えた」

SE 椅子を引く音

SE 隣に座る

【ヒロイン「警備って？」】



1 【1】

2 グロウ「あなたが退院してから四日になるが、
3 奴は外部の人間に、一切の面会を許していない。

4 まあ……理屈はわかる。

5 二十五年の眠りから目覚めたあなたについて、
6 面白おかしく騒ぎ立てようとする連中は少くない。

7 だが私や、

8 主治医のパストルまで締め出すのは少々やりすぎだ」

10 【沈黙するヒロイン】

12 グロウ「……何か、私に話したいことは？」

14 【ヒロイン「え？」】

16 グロウ「夜の図書室で、

17 ひっそりと本を読む女性は、

18 誰にも話せない秘密を抱えた

19 捕らわれの姫君と相場が決まっている」

21 【ヒロイン「何もないよ、大丈夫」】

22 【グロウから視線をはずし、本を見るヒロイン】

24 【3】

25 グロウ「そうか……

26 まあ、話したくないのなら強要はしない。

27 だがそんな顔をされては、

28 このまま引き下がるわけにもいかないな。

29 悲しんでいる姫君を、見捨てては戻れない」

31 【3 耳元で】

32 グロウ「オーリ。本当のところをいうと、

33 私はあなたをさらにきたんだ」

SE…驚いて軽く飛びのく

【1】

グロウ「ヴィスクはどうかしている。
目を覚まさないあなたの世話をするために、
奴は十五を過ぎてからも孤児院に通い続けた。
仕事の合間に、寝食を削ってな」

グロウ「それだけならば美談だが……

やつは他人にあなたを触らせようとしなかった。
あなたの体を毎日清め、
新しい服を買ってはあなたに着せた。

あなたが目覚めたあの日まで、
奴が仕事を終えた後に戻るのは
自室ではなくあなたの部屋だった。
口さがない連中はこう噂した。

“孤児院の院長は人形遊びに傾倒している”と。
この意味が分かるか？」

【ヒロイン「????」】

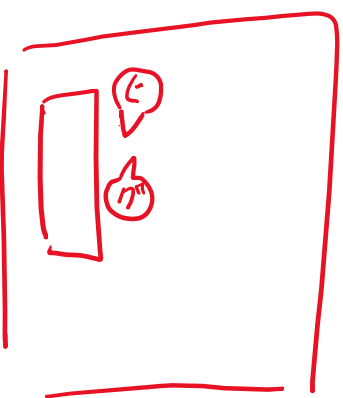
グロウ「わからないか……

そうだな……あなたには想像もできないだろう。
話して聞かせたところで、
信じられもしないはずだ。
だが——」

【1】

グロウ「——欲望を感じただろう？
あの男から。
やつはあなたを諦めていない」

【ヒロイン「どうしてわかるの？」】



1 【1 身を乗り出す】

2 グロウ【ヴィスクへの嘲笑をこめて】

3 わかるさ。手に取るようにな。

4 やつがあなたに求めるのは、

5 自分のそばでほほ笑んでいるだけの人形だ。

6 あなたは自らの足で立ち、生きることが望むだろう。

7 だが、やつはそれを望まない。

8 あなたは多少の危険を愛するだろう。

9 だが、やつはそれを許さない。

10 しかし、わたしなら——」

11 【1 少し離れる】

12 グロウ【いったん落ち着いて】

13 私はあなたの人生に責任を取るつもりだ。

14 どうか、私の養子に入ってくれ。

15 貴族の息女として、信頼のおける若者と縁談を組もう。

16 あなたが望むのなら、

17 ずっと独り身で生きてもいい。

18 私の財産をすべてあなたに託すと遺言を書く。

19 私のすべてをかけてあなたを守ろう。

20 私と一緒に来てくれ」

21 【ヒロイン、迷う】

22 S E…ドアが開く

23
24
25
26
27 【ドアの外で会話の流れを聴いていたヴィスクが、「これはまずい流
28 れだわ」と介入してくる】
29

30 【9】

31 ヴィスク「いい加減にしろ。

32 顔を見にきた程度なら見逃してやろうと思ったが、
33 連れ去りが目的なら通報するぞ」
34



1 グロウ「ようやく出てくる気になったのか。
2 そのままドアの向こうで息を殺して、
3 立ち聞き続けるつもりだと思っていたが」

4
5 【ヴィスクが姿を見せたので、慌てて立ち上がるヒロインと、ヒロイ
6 ンを背後から抱きすくめるグロウ】

7
8 SE…ヒロイン立ち上がる

9 SE…ヒロイン抱き寄せる衣擦れ

10
11 【4 耳元で】

12 グロウ「大丈夫だ。

13 やつを恐れなくていい。
14 私がそばにいる」

15
16 【9】

17 ヴィスク「深いため息」オーリ。

18 昼間のことは謝ります。

19 二度とあんなことはしない。

20 だから、どうかこっちへ来てください。

21 その男は今も昔と変わらない。

22 他人を傷つけることに喜びを見出す残忍な男です。

23 グロウは壊れている」

24
25 グロウ「では、貴様はどれほど潔白だ？

26 たかだか数日預けただけで、

27 彼女は貴様に怯えている。

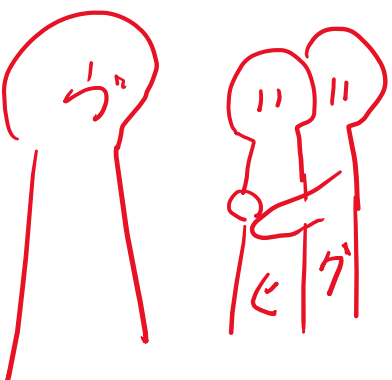
28 この人を傷つけたら、

29 さらに来ると言っておいたはずだ。

30 【抱き上げながら】彼女は私が連れて行く」

31
32 SE…抱き上げる

33
34



1 ヴィスク「グロウ、待て！
2 —オーリ！」

3 SE…走る音

4 SE…窓から飛び出す

5
6
7 【3 走りながらですが呼吸落ち着いてて大丈夫です】
8 グロウ【楽しそうに】しい……慌てなくていい。
9 わかっていたさ。

10 あなたはヴィスクは捨てられない」

11 【3】

12 グロウ「だから、私が無理矢理さらうんだ。

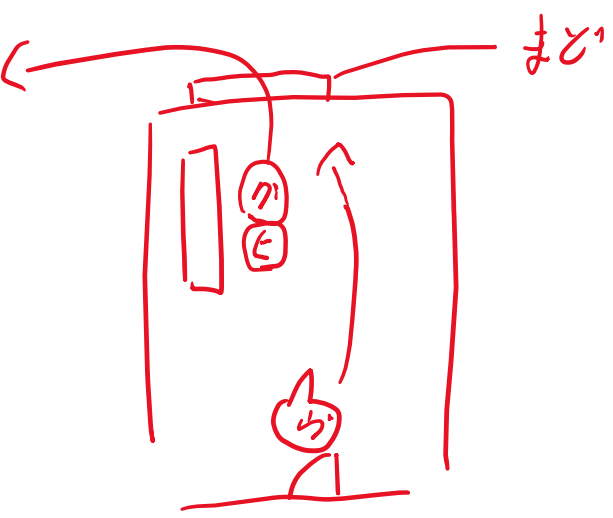
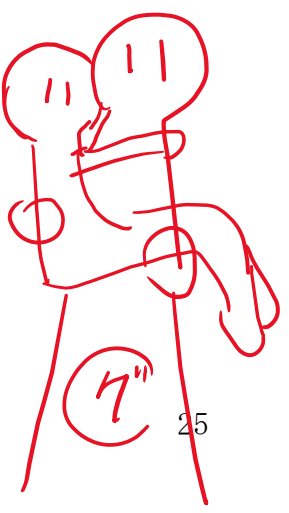
13 あなたが罪悪感に傷つかなくていいように。

14 ヴィスクのもとに帰りたいと願うなら、

15 いつでも帰ってかまわない。

16 我が姫。

17 すべてあなたの仰せのままに」



●トラック6 一線

支配の始まり

しばらく穏やかな日々を過ごしていたグロウとヒロイン。

しかし隠れていた本を見られたことがきっかけで、重度のサディストであることがヒロインにバレて狼狽するも、受け入れてもらえるグロウ。

軽ーく縛って犯すくらいの穏やかソフトSM

【暇を持て余したヒロインが、物置きであれこれ漁っていると、偶然過激なサディズムの本を見つけてしまう。そこに、外出からグロウが帰ってくる】

※半地下で荷物たくさんあって木造なので反響しなくて大丈夫です

SE…物置のドアノック

SE…ドア開く

【帰宅したグロウに振り向くヒロイン】

【9】

グロウ「ただいま、我が姫。

物置きにいますということは、

少し退屈させてしまったようだな。

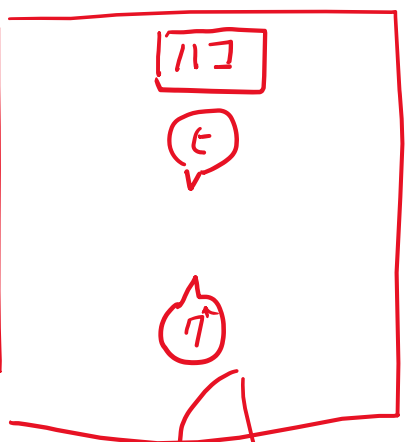
ああ、そんなにホコリまみれになって……

冒険の成果は？」

【グロウ、ヒロインの手にある本を見て青ざめる】

グロウ「……そ……れは。

バカな……箱にはカギがかかっていたはずだ！」



SE…歩み寄る強めの足音

SE…本取り上げる

【1】

グロウ「これはあなたが読んでいいものじゃない」

【ヒロイン「もう全部読んじゃった」】

グロウ「読んだ!？」

これを……すべて読んだのか……？

どうしてそんな……

内容を理解できないほど幼くはないだろう!」

【ヒロイン「同じような本がたくさん入ってた」】

【1】

グロウ「深いため息」この本は、

仕事に必要な資料として集めたものだ。

拷問や、虐待や……

性的倒錯のために

人間を苦しめる者の心理を知る必要があつて……」

SE…本放り込む

SE…木箱閉める

グロウ「焼き捨てておくべきだった。

まさかあなたに

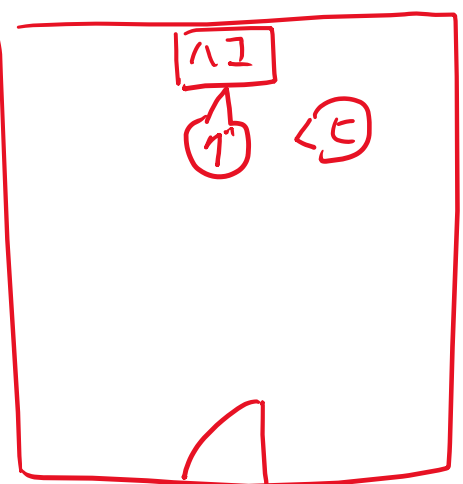
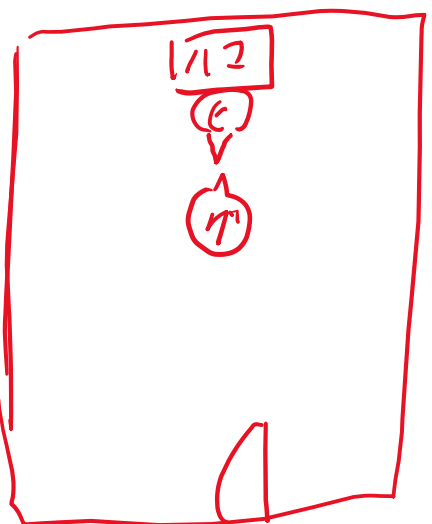
こんなものを見せてしまうとは……」

グロウ【心配そうに】恐ろしかっただろう？

私ですら、読んでいて胸の悪くなるような内容だ。

すまない。

私があなを退屈させたばかりに」



1 【1↓~~8~~7】しゃべりながら横に立ち背中を押す】
2 グロウ「さあ、もうここを出よう。」

3 本は明日にでも処分しておくから」

5 【ヒロイン「嘘つかなくていい」】

7 【1】

8 グロウ【引きつつて】嘘……？

9 なぜ私が嘘をつく？

10 【不安げに】あなたは私が、

11 喜びのために人を傷つける男だと思うのか？」

13 【ヒロイン「昔からそうだった」】

15 【1】

16 グロウ「私はもう、昔とは違う！

17 【怯えるように】あの頃の私は愚かで……

18 ほかに気を引く方法を知らなかったただけだ。

19 だが今は……

20 父親代わりとして、正しくあなたを愛せる。

21 そうだろう？

22 この数ヶ月、私があなたを傷つけようとしたことが、

23 一度でもあったか？」

25 【ヒロイン「ずっと我慢してたのかなって」】

27 グロウ「我慢など……！

28 オーリ、どうか……

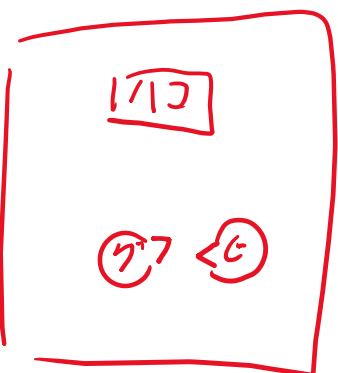
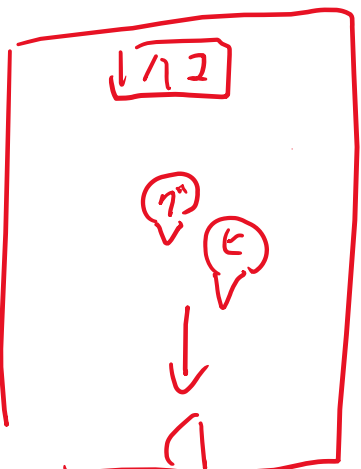
29 これ以上は聞かないでくれ。

30 あなたに疑われることが一番つらい。

31 これからも正しくあると誓うから」

33 【ヒロイン「本当のことが聞きたい」】

34



1 【1 少しうつむいて】

2 グロウ「なぜそこまで……」

3 美しい嘘よりも、

4 おぞましい真実の方が、

5 あなたを安心させるのか？」

6
7 【ヒロイン「嘘をつかれると信じられなくなる」】

8
9 グロウ【深いため息】

10 確かに……そうかもしれんな。

11 嘘をつく男の言葉など、

12 信用に値しない。

13 ならば認めよう、

14 私は他人の苦痛を愛している」

15
16 【ヒロイン「私のことも苦しめたいの？」】

17
18 【1】

19 グロウ【困って】「どうだろうな……」

20 あなたを苦しめたい気持ちがないとえば、

21 ウソになる。」

22
23 グロウ「だが、これだけは信じてくれ。

24 私はあなたが望む以上のことをしたくはないんだ。

25 あなたが望む苦痛を与え、

26 苦痛から解放されたあなたの喜びを見ていたい」

27
28 グロウ「あなたは、どうだ？

29 私に触れられることを、

30 一度でも想像したか？」

31
32 【ヒロイン「したことない」】

33
34

ヒロインを見ない

【3 耳元で】

グロウ「では、想像してみるといい。
身動きが取れない状態で、
視界すら奪われて、
無慈悲に与え続けられる快楽を」

グロウ「これは心の一番深くで、
柔らかな部分に関わる問いだ。
無遠慮に触れられては血にまみれ、
きざまれた傷は二度と癒えない。
私のそういう部分に、あなたは触れた。
見ないでくれと懇願した私を暴き、
私は今、あなたにすべてをさらしている。
それなのに、あなたは私に
本心を見せてはくれないのか？」

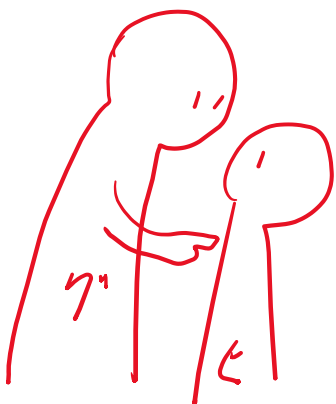
【1 ヒロインを眺める】

グロウ「震えているな。
だが、恐怖ではない」

【7 耳元】

グロウ「耳の中で、血がドクドクと流れる音がするだろう？
口が渴いて、息が苦しくなってくる。
緊張で目が潤み、涙が溢れそうになる。
あなたの中で渦巻く、
不安と、欲望と、好奇心を、
どう扱ったらいいかわからなくてつらいだろう。
心配しなくていい。
私が生きていて引き受ける。
祈っていなさい、そのまま。
私がいいと言うまで、ずっと」

【7 ねっとり目に耳舐め ゆっくりしたテンポで 秒数お任せします】



1
2 SE…ヒロインがくずおれる
3 SE…抱きとめる
4

5 【1】
6 グロウ「つと……！」
7

8 ああ……そんなにとけた顔をして。
9 思った通りだ。

10 あなたは一人の女として、
11 男である私を意識している。
12 これほど光栄なことはない。

13 だが、この先に進むには許可がなくては。
14 あなたが一度領いてくれさえすれば——」

15 【3 耳元で】
16 グロウ「私はあなたの親代わりをやめられる」
17

18 【ヒロイン、うなづく】
19

20 【1】
21 グロウ「仰せのままに、我が姫。
22 【抱き上げる】おいで、寝室にいこう。」
23

24 SE…足音

25 SE…ドア開閉

26 SE…足音フェードアウト
27 間

28 SE…足音フェードイン

29 SE…ベッドにござり
30

31
32
33
34

【13】

グロウ「そのまま、うつぶせに。
服は脱がなくていい。
——ベルトで縛るぞ。
背中に腕を回して——そうだ」

SE:ベルトで縛る

グロウ「痛くはないか？
では、次に目隠しをする」

SE:衣擦れ

【6 ヒロインにのしかかりつつ】

グロウ「怖いかな？ それでいい。
その恐怖心こそが、あなたを高みにつれていく。
視界を奪われると、
次に何をされるか予想ができず、
なんでもないことでも過剰に感じる。
ほら、こんふうに——」

SE:びくつとなる

グロウ「服の上から背中をなぞるだけで、
どうしようもなくなるだろう？
薄い布越しに、
あなたの興奮が伝わってくる。
——ここも、ここも」

※このセリフ、どこを触られているかセリフで特定しなくて大丈夫です。全体的にリスナーの想像力ふる回転トラックと思ってください

SE:服の上から体をまさぐる衣擦れ



【7 舐めるように】
グロウ「どこに触れても、面白いくらいに反応するな。
布越しにこの反応なら、
素肌に触れたらどうなるか——」

SE…ヒロイン仰向けにする

【1】

グロウ「どれほど狂うか、見てみよう」

SE…服破く

【ヒロイン、ビククリして暴れる】

SE…ジタバタ

SE…太もも軽く叩く

SE…ジタバタストップ

【叩かれたショックでフリーズしたヒロインを。馬乗り状態で見下ろすグロウ】

【1】

グロウ「抵抗をするな。

ふいに動かれると、力加減を間違える。

これはあなたを守るために、

決して破ってはいけないルールだ。

約束を破るたび、私はあなたの体のどこかを

叩かなければならない」

【ヒロイン「でも、やぶくなんて……」】



1 【1】

2 グロウ「なだめる」ああ、そうだな。驚いたな。
3 大丈夫、少しずつルールを覚えて行けばいい。
4 失敗するたびに、私がちゃんと叱ってやる」
5

6 グロウ「だから、一つだけ。」

7 どうしても耐えられないと思ったときに、
8 あなたが口にする言葉を決めよう。

9 助けて、ヴィスクと。

10 そう言ってくれ。

11 そうすれば、私はあなたをすべての苦痛から解放放つ」
12
13

14 【3 耳元】

15 グロウ「言ってごらん。＂助けて、ヴィスク＂と」
16

17 【ヒロイン「助けて、ヴィスク」】
18

19 【1】

20 グロウ「いい子だ。」

21 よく、覚えておくことだ。

22 この関係の結末を決めるのは、

23 あなたであって、私ではない。

24 だから、

25 【言いながらディープキスへ】安心して溺れるといい」
26

27 【ディープキス30秒程度】
28

29 【7 耳元】

30 グロウ「もどかしいか？」

31 そんなに体をくねらせて。

32 命じられてもいないのに、

33 足を開いて誘っている。

34 ほら——」

1
2
3 S E::水音ゆつくりめにねちねち

4 グロウ「こんなに濡らして、はしたない姫君だ。
5 私の指を奥へ、奥へと飲み込んで、
6 離れたくないと締め付けてくる」

7
8 【ヒロイン「初めてなのに、そんなはずない」】

9
10 グロウ「認められないか？」

11 自分が淫乱な女だと。
12 だが男に縛られ、一方的に嬲られて、
13 あなたの体は歓喜に震えている」

14
15 【7 耳舐めしばし 秒数お任せしますので良きところで次のセリ
16 フへ】

17
18 【愛撫と耳舐めだけで派手にイクヒロイン】

19
20 S E::ベッドの上で体が跳ねる

21
22 【7】

23 グロウ「大げさに体を跳ねさせて……
24 貞淑な乙女らしからぬ、品のないイキ方だ。
25 中の方もどろどろに溶けて、
26 もう指では足りないか」

27
28 【1 少し離れて】

29 グロウ「では快楽に貪欲な姫君に、
30 もう少し奉仕するでしょう」

31
32
33
34

【1 下から】

グロウ「そのまま足を開いている。
こうやって指でかき回しながら、
あなたが垂れ流した愛液を
私が舐めてやろう」

【1分ほどヒロインの秘所舐める音のみ】

【1 下から】

グロウ「ちゅ……ちゅ……
赤く充血して……
舌先で触れるだけで、
ちゅ、れろ……
ビクビクと腰が跳ねる……ちゅ……
気に入ったか？
あなたが望むなら、どれだけでも続けてやる」

【1分ほどヒロインの秘所舐める音のみ】

【グロウ、泣き出したヒロインに気づき、中断して顔を覗き込む】

【1 至近距離】

グロウ「ああ……その涙。
美しいな。
目隠しをしているのが惜しくなる。
もっと泣いてくれ、私のために。
ほら、あなたの感じる場所すべてに、
あなたの理性が壊れるまで触れてやるから。
たとえばこの、
硬く立ち上がった乳首もこうして……」

【1 下から】

グロウ「胸を舐めつつ」ちゅ……じゅる……
少し胸を……ちゅ……しゃぶられただけで、
哀れなくらい簡単に……ちゅ……いくじゃないか」



【1 下から】

グロウ「胸を舐めつつ」いいや、やめない。

ちゅ、ちゅ……あむ……れる……

ほら、反対側もこうして、

指ではじくと……はは……！

またいった。

指ではじめて、ちゅ……しゃぶって、

噛んで、舐めるたびに……

理性が剥がれていくようだろう？」

【胸舐める音しばし 秒数お任せします。よきタイミングで次のセリフへ】

SE…ヒロイン、暴れる

SE…太もも叩く

【3 至近距離】

グロウ「優しく」抵抗するなど言っただろう。

わざと暴れて、私に叩かれようとしたのか？

なるほど、どうりでこうして叩くたび——」

SE…太もも叩く

グロウ「中がキツく締まるわけだ。

もう耐えられないか？

これ以上イきたくない？

終わりにしたければ、あなたが終わらせるんだ。

中に入れてと上手に言えれば、

入れてやらないこともない」

【ヒロイン、屈する】



SE:水音終わり

【1 頬や額キスしながら】

グロウ「ああ……いい子だ。

きちんと上手におねだりが言えたな。

おいで。

ほら、私の上にまたがって。

ゆっくり腰を落とすんだ。

ゆっくり、ゆっくり」

SE:挿入音

【ヒロイン、腰を落としきれず途中で止まる】

【1 下から】

グロウ「どうした？

まだ半分も入っていない」

【ヒロイン「これ以上無理」】

グロウ「そうか……

できないのなら、仕方ない。

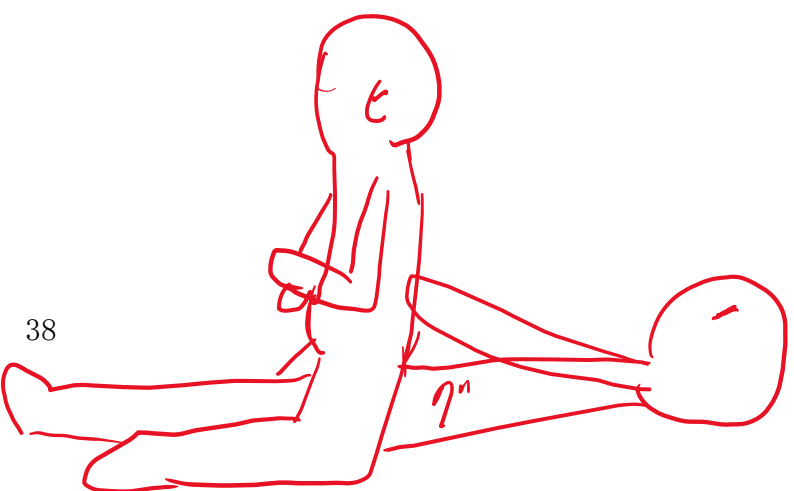
ならばこうして——【腰をつかんで無理やり引き落とす】」

SE:ぐちゃ

グロウ「私が手伝ってやるしかないようだな」

【ヒロイン、泣きながらもぐが、そのまま容赦なく続けるグロウ。
ここからのセリフ次の指定まで休みなく下から突き上げながら】

SE:水音&肉を打つ音 いきなり180BMP程度で激しく



1 グロウ「っはははは……！
2 酷い……声だな……ッ……！
3 さかりのついた猫でも、
4 もう少しマシな声を出すぞ」
5

6 【1 下から】

7 グロウ「ほら、わかるか？
8 ここが一番奥だ……！
9 突き上げながら、腹の外からこうやって押すと……！
10 ほら、またいった。
11 はあ……はあ……あぁ……くッ……
12 そうだな、イってるな。
13 何度も、何度も……
14 際限がないほどに……！
15 だが、私はまだだ。
16 終わらせなければ、
17 あなたが努力するしかない。
18 ほら、腰を浮かせようとするんじゃない……！
19 もっと深くくわえこめ！」
20

21 S E…太もも叩く

22
23 【荒々しい吐息のみしばしよきタイミングで次のセリフへ】
24

25 【1】

26 グロウ「っは……いいぞ、そうだ……
27 上手くなってきた。
28 は……っは、ぐ……あぁ……！ 【フィニッシュ】
29

30 S E…倒れこむヒロイン

31 S E…抱きとめる

32
33 【失神しているヒロインに気づくグロウ】
34

1 【7 耳元】

2 グロウ「ああ……気を失ったか。

3 【優しく】よしよし……よく頑張ったな。

4 私のために、よく頑張ってくれた」

5
6 【急に冷静になって、「父親と娘でいようと思ったのに」と自分の理
7 性の弱さにがっかりするグロウ】

8
9 グロウ「ああ……まったく……」

10 【自嘲気味】なんてさまだ……こんなこと……」

11 【1 天井をあおいで】

12
13 グロウ「ヴィスクのことを笑えんな……」

●トラック7 支配者の呵責

トラック6からさらに一ヶ月ほど。
じりじり調教が進む中、「ヴィスクと仲直りしたい」的なことをぼろ
っとこぼしたヒロインに対し、少々タガはずれ、いつもより強めの
プレイに走るグロウ。

場所…グロウの家
時刻…昼間

SE:昼食の食器

【9 テーブルをはさんで向かいがわ】
グロウ「……ヴィスクに会いたい……？」

【慌てて】どうしたというんだ、急に。
私がおか、
あなたを怒らせるようなことをしたのなら……！」

【ヒロイン「挨拶に行きたいだけ」】

グロウ「挨拶……？
なんのために？」

【ヒロイン「家出みたいに出てきたから、
安心させてあげたい」】

グロウ「心配など……
いくらでもさせておけばいいだろう！」

【ヒロイン「でも、いつでも帰っていいって」】



【9 テーブルをはさんで向かいがわ】
グロウ「【ため息】あなたはもう少し、

思慮深いと思っていたのだが……。

戻ったが最後、

やつはあなたを監禁するぞ。

やつの所に帰るといふことは、

私のもとを去るといふことだ」

【グロウ、食卓から立ち上がり、ヒロインの横に立つ】

【9↓3】

グロウ「帰りたいのなら、止めはしない。

それはあなたの選択だ。

——だが、【耳元で】私に伝えるべきではない」

【テーブルクロスをひっぱり、食卓の上の物をすべてぶちまけるグロウ】

SE:重めの布

SE:食器ガチャーン

【1】

グロウ「テーブルに座れ」

【ヒロイン、戸惑う】

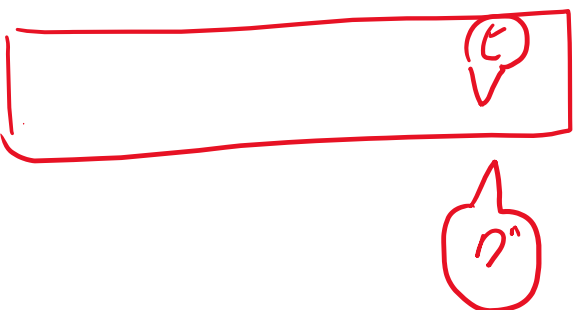
グロウ「早く！」

SE:椅子を引いて立つ

SE:テーブルに座る

グロウ「服を脱げ。

下着まですべてだ」



SE…衣擦れ

SE…服を床に落とす

【ヒロインの体には、日々の調教によって縛られた跡や叩かれた痣などが残っている】

【1】

グロウ「この体を見て、ヴィスクはどう感じると思う？

あなたの体のどこを見ても、

私が刻んだ傷がある。

この一ヶ月で、あなたの体は

すっかり私に慣らされてしまった。

私が濡らせと命じるだけで、

指一本触れられなくとも、

あなたの体は男を求めてうずき出す。」

【7 耳元】

グロウ「奴はさぞ、幻滅することだろうな。

二十五年間、思い続けた愛しい人が、

これほどの淫乱だと知って、

心底傷つき、苦しむだろう。

哀れだとは思わないのか？

やつを苦しめるために帰るのか」

【ヒロイン、体を隠す】

SE…太もも叩く

【1】

ヒロイン「体を隠すな。

両手はまっすぐ下に。

——足を開け」

1 【従うヒロインと、それを見下ろすグロウ】

2

3 【1】

4 グロウ「嘲笑」もう濡れてきているな」

5

6 SE…水音ゆっくりめにねちねち

7

8 グロウ「ここも……」

9 すっかり私の形に慣らされて……

10 【叱る】声を上げるな。

11 感じていいとは言っていない」

12

13 【ヒロイン、唇をかみしめる】

14

15 グロウ「ああ……ダメだな。

16 あふれて止まらない。

17 私がどれだけ命じようと、

18 あなたの淫らな性分は、

19 もうどうしようもないようだ。」

20

21 グロウ「舌を出せ。

22 ほら、指をくわえろ。

23 もっと喉の奥まで。」

24

25 【ヒロイン、吐きそうになりつつグロウの指をしゃぶる】

26

27 グロウ「吐きそうか？

28 喉が苦しげに痙攣して、

29 あなたが苦痛にもがくたび、

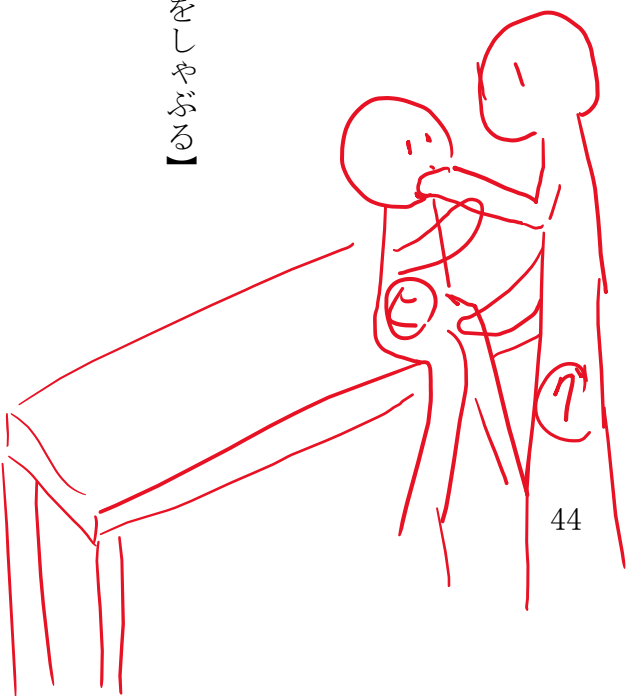
30 下の方も私に締め付けてくる。

31 ほら、喉の奥をくすぐってやる。

32 指の腹で、こーやって」

33

34 【ヒロイン、耐えきれずグロウの腕をつかむ】



SE:服をつかむ

【1】

グロウ「冷ややかに」なんだ、その手は？

まさか私を引きはがそうとしているのか？

いいだろう、存分に暴れる。

ほら、どうした？

もつと奥まで指を入れてやろうか？

もつとはげしくかき回してやろうか」

SE:ジタバタ

【7 舐めるように】

グロウ「そうだ、いいぞ。

そのまま苦しめ。

こちらも、締めりがよくなってきた。

イキそうか？

あと十秒耐えてみる。

そうしたらイっていい。

私が数えてやろう」

【いじわるく、ゆっくりカウントダウンしてください】

グロウ「十、九、八……一……ゼロ。

ほらイケ、イケ……！

喉の奥と腹の中をかき混ぜられて、

だらしなくよだれを垂らしながらな」

SE:指を引き抜く水音上下

【指を抜かれたあとも、何度も吐きそうになるヒロイン】

1 グロウ「休んでいいとは言ってない。
2 床にひざまずけ」

3
4 【従うヒロイン】

5
6 S E…ベルト引き抜く

7 S E…ズボンおろす

8
9 【1 上から】

10 グロウ「くわえろ。

11 喉の奥まで」

12
13 【ヒロイン、吐きそうになりながら喉の奥までくわえこむ】
14

15 S E…水音

16
17 グロウ「ああ……そう……そうだ。

18 ちゃんと舌を絡めて。

19 喉の奥が……

20 私を必死に押し返しているな……

21 泣くほど苦しいか？

22 ——だが、これからもう少し苦しくなる」
23

24 【グロウ、ヒロインの頭つかんでイラマチオ。ヒロインは初めてのこ
25 とにパニックになりめちやくちやもがくが逃げられない】
26

27 S E…イラマチオの水音激しめに
28

29 【1 イラマチオしながら】

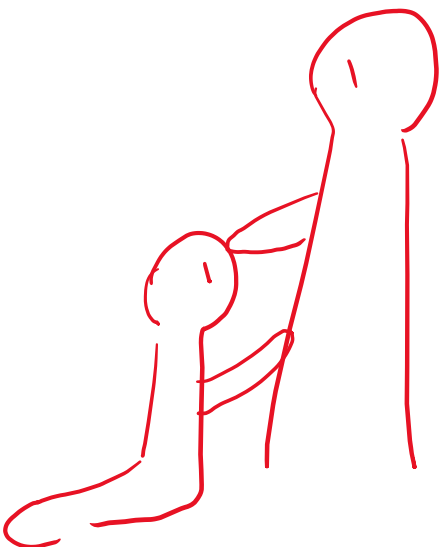
30 グロウ「ほら、こうして……！」

31 無理に喉の奥を突かれると……！

32 気を失いそうなほどつらいだろう？

33 ああ……可哀想に。

34 口をふさがれていては合言葉も言えないか」



【10秒ほど吐息のみ】

【1 上から】

グロウ「出すぞ……飲み込め……！」【喉奥で射精】

SE:ヒロイン倒れこむ

SE:嘔吐

【7 腕をひっぱる】

グロウ【脅すように】誰が吐いていいと言った？

私は飲み込めと命じたはずだ。

——立て。」

【ヒロイン、テーブルに手をついてグロウに背を向ける】

【1↓5 言いながらヒロインを後ろに向ける】

グロウ「後ろを向け。

テーブルに腕を突いて、

思い切り足を開くんだ」

SE:テーブルギシリ

【6】

グロウ【優しく】前を見てみる。

窓にあなたの姿が映っている。

窓の外からは……どうだろうな。

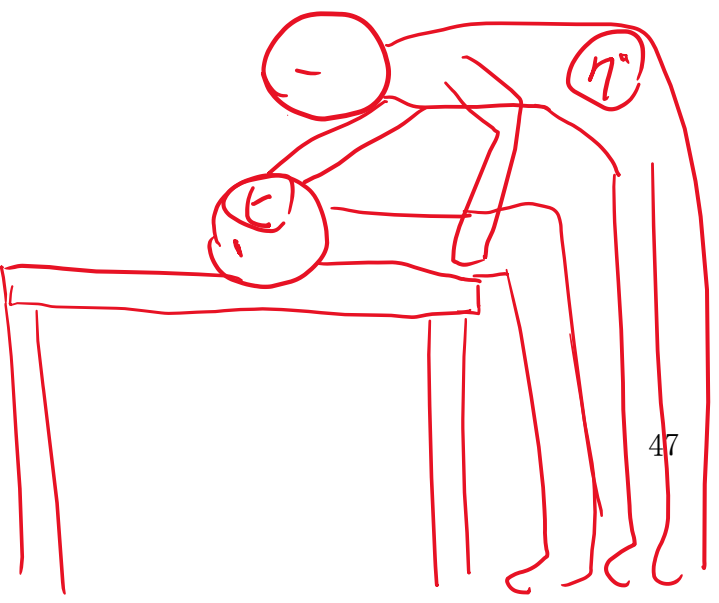
体をテーブルにしっかりと伏せていれば、

見られずに済むかもしれない。

だがもし見られたら……

私とあなたは、父と娘でまぐわう変態だ。

町中の噂になるな」



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

1 【7】
2 グロウ「そうしたらもう、
3 あなたは私から逃げられない」
4

5 【ヒロイン、暴れる】
6

7 S E::ジタバタ

8 S E::テーブルに押さえつける
9

10 【7 耳元】
11

12 グロウ「しい……しいー……
13 抵抗するふりをしても無駄だ。
14 苦しいだけの時間を過ごしたというのに、
15 あなたは床に滴るほどに
16 蜜をあふれさせている」
17

18 【7】
19

20 グロウ「私があなたに執着した理由が、
21 今ならわかる。
22 ようやく、わかった。
23 あなただけが、私に耐えられる。
24 私を受け入れてくれる。
25 入れるぞ、奥まで……く……ああ……ッ」
26

27 S E::挿入音
28

29 【7】
30

31 グロウ「ああ、この締め付け……
32 イったのか？
33 今ので何度目の絶頂だ？
34 ほら、背中が反って、顔が上がっている。
外の連中に見せつけたいのか？」

1 S E…水音&肉を打つ音いきなり激しめに180BPMくらい
2 S E…テーブルが軋む音水音に合わせてください
3

4 【7】
5 グロウ「そうだ。
6 ぴったりとテーブルに体を伏せて……
7 ほら、こうして……！
8 前後に激しく揺らすと、
9 テーブルに胸がこすれて気持ちがいいだろう。
10 下の方も……こうして、指でひっかいてやろう。
11 あなたは奥を突かれながら、
12 敏感な場所を全部触れられて、
13 気を失うくらいイキ狂うのが好きだからな……！」
14

15 【5 吐息のみ30秒程度】
16

17 【3 耳にキスしたりなめたりしながら】
18 グロウ「壊れる？
19 はは……そうか。
20 ちゅ……それもいい……ちゅ、ちゅ……
21 壊れたら、あなたはどんな風になるんだ？
22 ん？
23 もっと私に……ちゅ……ふさわしくなるなら……
24 壊しがいいもある……！」
25

26 【耳舐め10秒程度】
27

28 【3 耳元で】
29 グロウ「ほら、またいった。
30 痙攣が止まらないな。
31 イったまま降りてこれないか？
32 叫んでばかりいないで、
33 人間の言葉をしゃべってみろ……！」
34

1 【ヒロイン、イキすぎてガン泣き状態になるが、グロウはやめない】

2
3 【3 耳元で】

4 グロウ「やめてほしいか？

5 どうしても？

6 これ以上は耐えられない？

7 では言え。

8 私を愛していると。

9 二度と私のそばを離れないと誓え……！

10 誓え、誓え、誓うんだ……！」

11
12 【ヒロイン、「任意の言葉」を叫ぶ】

13
14 【3 耳元で】

15 グロウ「ふ……くっ……！【フィニッシュ】」

16
17 【十秒程度呼吸を整えつつ、抜く。ヒロインはテーブルに突っ伏した
18 ままぐったりしている】

19
20 グロウ「それがあなたの選択か。

21 いいとも、我が姫。

22 すべてあなたの仰せのままに」

●トラック 8 (分岐 A) 蜂蜜漬けの加虐

グロウの支配を受け入れることを決めたヒロインに、放置プレイからの首絞めセックス。

場所…二人の寝室

時間…昼間

SE…鎖の音

SE…軽く頬を叩く音

【ベッドに手足を拘束され、おもちゃを入れられた状態で気絶しているヒロインを叩いて起こすグロウ】

【1】

グロウ「起きろ…起きろオーリ。

そろそろ目を覚ませ」

【ヒロイン、目覚める】

【1】

グロウ「気を失っていたのか？」

SE…デイルドを前後に動かす水音ねちねち

【7 耳元で】

グロウ「こんなものをくわえこみながら、

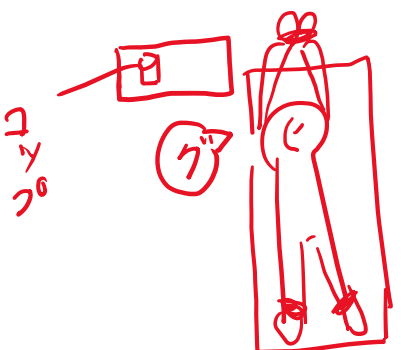
よくのんきに寝ていられるものだな。

菓の量が足りなかったか？

意識を失う余裕もないほどに、

もどかしい情欲で理性が焼ききれるほどに、

たっぷりと塗ってやるべきだったか」



1 【7 耳元で】

2 グロウ「うん……？」

3 どうした。水が欲しいか？

4 そうだろうな。

5 私が部屋に戻らぬ間、

6 一晩中、たすけて、抜いてと

7 泣き叫んでいたのだから、

8 喉が渴いて当然だ。

9 分かっているとも。

10 すべて隣の部屋で聞いていた。

11 本当に、私があなただを置いて家を空けたと思ったのか？

12 そんなことをするはずがないだろう【頬にキス】

14 S E…コップに水をそそぐ

16 【1】

17 グロウ「ほら、口を開け。

18 私がのませてやる」

20 【水を含んでティープキス10秒ほど】

22 【1】

23 グロウ「もつと？

24 仕方がないな。

25 ほら、もう一口」

27 【水を含んでティープキス10秒ほど】

29 グロウ「縄を切るぞ。

30 よく一晩耐えきったな。

31 さすがは我が姫だ」

33 S E…縄を切る

1 グロウ「これも、もう抜いてやろう」

2
3 S E…水音

4 S E…木型を床に落とす音

5
6 【7 耳にキスしながら】

7 グロウ「ほら……ちゅ……」

8 楽になった……ちゅ、ちゅ……」

9
10 グロウ「実は、受け取ってほしいものがあるんだ。

11 あなたがこの夜を堪え切れたら、

12 贈ろうと思っていたものだ」

13
14 【人間の首輪を差し出すグロウ】

15
16 S E…クサリじやらり

17
18 【1】

19 グロウ「この首輪をつけて過ごしてほしい。

20 家の中でも——外でも。

21 あなたが私の物だと、

22 すべての男にわかるように」

23
24 S E…金具カチャカチャ

25
26 グロウ「ああ……思った通りだ。

27 よく似合う。

28 綺麗だ、我が姫。

29 あなたは世界の誰より美しい【言いながらデープキス】

30
31 【キスしながら、ヒロインにのしかかるグロウ】

SE…衣擦れ

SE…ベッドの軋み

【1】

グロウ「今日は、いつもより少し、
危険なことをしてもいいだろうか」

【ヒロイン「危険？」】

グロウ「この首輪は、少し特殊な作りになっているんだ。
鎖を引くと、内側にあるリングが閉まる。
しまったリングはあなたの頸動脈を圧迫し、
脳への血流を止め、
あなたの意識はとけるように落ちていく」

【ヒロイン「苦しいの？」】

グロウ「そうだ。苦しい。

だが、苦しさを超えるとふわふわとして、
依存性のある快楽になる。
しかし力加減を間違えれば、
命を落とす可能性もある。
だからもし、あなたが嫌ならば……」

【ヒロイン「大丈夫。信じてるから」】

グロウ「ほっとして」そうか……

では、少し練習しよう。
首を絞めるぞ。

十秒数えるが、つらくなったら腕を叩いてくれ」

【ヒロイン「いつもより優しい」】



1 【1】

2 グロウ【笑って】優しくもなる。

3 これは本当に、命に関わることだ。

4 あなたに死なれては、私はもう生きていけない。

5 ゆっくり息を吸って……絞めるぞ」

6
7 S E : 鎖の音

8
9 グロウ「5・4・3・2・1」

10
11 S E : 鎖緩める音

12
13 グロウ「どうだ？ 苦しかったか？」

14
15 【ヒロイン「大丈夫」】

16
17 グロウ「では、次は十秒だ。」

18
19 S E : 鎖の音

20
21
22 グロウ「十、九、八——」

23
24 S E : 鎖緩める音

25
26 グロウ「どうだ？

27 少し、ふわふわしてきたようだな。

28 こうして首を絞めたり、

29 緩めたりしながら、

30 私は今からあなたを犯す」

31
32 S E : ベッドギシ

33
34

【1】

グロウ「慣らす必要はないな。
入れるぞ。力を抜け。【言いながら挿入】」

SE…挿入音

グロウ「ッ……これは……

ああ……あなたの中に、
まだ葉が残っているのか……！
っはは……なかなかの刺激じゃないか」

グロウ「動くぞ。

首を……絞めながら……ッ！」

SE…鎖の音

SE…水音 180BPM くらいの激しさで

【首を絞め、カウントしながら激しく犯すグロウ】

グロウ「十、九、八、七、六、五、四、三、二、一……！」

SE…鎖緩める音

SE…水音 80BPM くらい

グロウ「っはは……本当に……

くいちぎられそうなほど締まるな……！

これでは私も余裕が持てそうにない。

絞めるぞ、もう一度……！」

SE…鎖の音

SE…水音 180BPM くらいの激しさで

1	【1】
2	グロウ「十、九、八、七、六、五、四、三、二、一……！」
3	
4	S E::鎖緩める音
5	S E::水音 80BMP くらい
6	
7	グロウ「つぶ……つぶ……はあ……はあ……
8	あなたもこれが……
9	気に入ったようだな……
10	ほら、もう一度」
11	
12	S E::鎖の音
13	S E::水音 180BPM くらいの激しさで
14	
15	【吐息のみ 10 秒。 10 秒頭の中でカウントしてください】
16	
17	S E::鎖緩める音
18	S E::水音 80BMP くらい
19	
20	グロウ「苦しいか？
21	だがまだだ。ほら、絞めるぞ」
22	
23	S E::鎖の音
24	S E::水音 180BPM くらいの激しさで
25	
26	グロウ「わかるか？
27	首を絞められたままイクと、
28	一段と苦しくて、感じるだろう？
29	あと五秒……！ 四、三、二、一……！」
30	
31	
32	S E::鎖緩める音
33	S E::水音 80BMP くらい
34	

【1】

グロウ「ひどい顔だな。

涙と鼻水とよだれでぐちゃぐちゃだ。

最後にもう一度だけ絞める。

私が出したら、あなたもイクんだ。

いいな？ 絞めるぞ」

S E::鎖の音

S E::水音 180BPM くらいの激しさで

【吐息のみ 10 秒。 10 秒頭の中でカウントしてください】

【7 ベッドに体を伏せて】

グロウ「は……うあ……！」

出すぞ、奥で……！

あ、ああ……っ……！【フィニッシュ】

S E::鎖が激し目に揺れる

【7 耳元で】

グロウ「はあ……はあ……

オーリ……？」

【1 少し離れて】

グロウ「笑って】また気を失ったのか」

【1】

グロウ【額や頬にキス】ちゅ、ちゅ……ちゅ……

昨晚から、随分無理をさせたな。

ゆっくり休むといい。

私も少し眠る」

S E::抜く水音

S E::ヒロインの隣に横たわる

【3】
グロウ「……あなたは私のすべてだ。
ありがとう。私を選んでくれて。
愛している。
お休み、私の眠り姫。【頬にキス】」



END

●トラック9（分岐B） 穏やかな共依存

グロウから逃げ出したヒロインは、再びヴィスクのところに帰ることに。
縛られ、叩かれたあとが体に残っているヒロインを、徹底的に甘やかす溺愛いちゃらぶセックスによって、邪悪なSMトラックとのバランスを取りたいです。

場所…ヴィスクの書斎

時間…夜

【ヒロインが去って一ヶ月。ほうぼう探しても見つからず、どん底まで落ち込むも真面目に仕事をこなしているヴィスクのもとに、ふらつとヒロインが戻ってくる】

SE…ノックノック

【9 ドアの向こうから】
ヴィスク「どうぞ」

SE…ドア開く

【9 手元の書類見ながら】
ヴィスク「どうしたんです？
こんな時間に。」

何か問題でも——【顔を上げてヒロインを見る】

SE…勢いよく立ち上がる

【9】

ヴィスク「オーリ……!？」



1 SE…ヒロインに走り寄る

3 SE…抱きしめる

【何も言わずに突っ立っているヒロインを抱きしめるヴィスク】

【3 抱きしめる距離】

ヴィスク「おかえりなさいオーリ！」

よく無事で……！」

【1 少し離れてヒロインのケガを確認する】

ヴィスク「どこか、ケガはありませんか？」

お腹は空いていない？

ああ、こんなに冷えて……

暖かいお茶を出しましょうね」

【ヒロイン「大丈夫だから、落ち着いて」】

ヴィスク【嬉しそうに】落ち着いてなんて……

いられるはずがないでしょう。

この一ヶ月、どれほど心配したか。

グロウは？ 一緒じゃないんですか？」

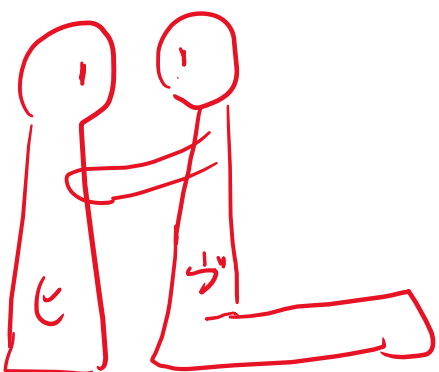
SE…頷く

ヴィスク【不穏さを察する】……逃げてきたんですか？」

SE…頷く

ヴィスク「何をされたのか……僕に聴いてほしい？」

SE…首を左右にふる



1 【1】
2 ヴィスク「いいんですよ、無理に話さなくて。
3 君が戻ってきてくれたことだけが、
4 僕にとっては何よりの喜びだ」

5
6 SE:ヒロイン、倒れる

7 SE:抱きとめるヴィスク

8
9 ヴィスク「つと……オーリ？
10 どうしたんですか？
11 オーリ、オーリ……！」

12
13 【1 1 3に向かって】
14 ヴィスク「誰か！
15 誰か医者を呼んでくれ！」

16
17 SE:複数人の足音バタバタフェードアウト

18
19 間
20

21 SE:一階で玄関ドア開く

22 SE:階段上ってくる足音

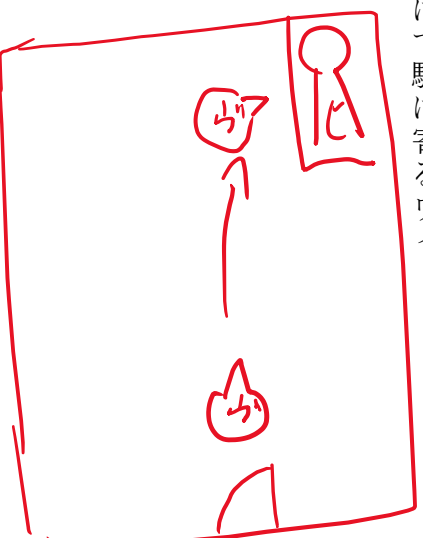
23 SE:部屋のドアが開く

24
25 【ベッドの上に体を起こしているヒロインを見つけて駆け寄るヴィ
26 スク】
27

28 【9→1】

29 ヴィスク「よかった、目が覚めたんですね」

30
31 【ヒロイン「ここは？」】
32
33
34



【1】

ヴィスク「僕の家です。」

お医者様に診てもらったら、

少し疲れただけだろうと……。

静かな環境で休んだ方がいいと言うので、
孤児院ではなく、ここにつれてきました」

【ヴィスク、ベッドに座る】

ヴィスク「心配しないで。」

どうせ、僕は日中ほとんど家にいませんし……

しばらくは孤児院で寝泊まりします。

僕が宿直の当番が変わると言えば、
職員にも喜ばれる」

【ヒロイン「一人にしないで……！」】

SE…しがみつく音

【7】

ヴィスク「わっ……と……！」

【困惑して】震えてるんですか……？

一人でいるのが怖い……？

ああ……こんなに怯えて、可哀想に。

それじゃあ、

孤児院の職員をここに呼びましょう。

事情を話せば、協力してくれるいい人ばかりだ。」

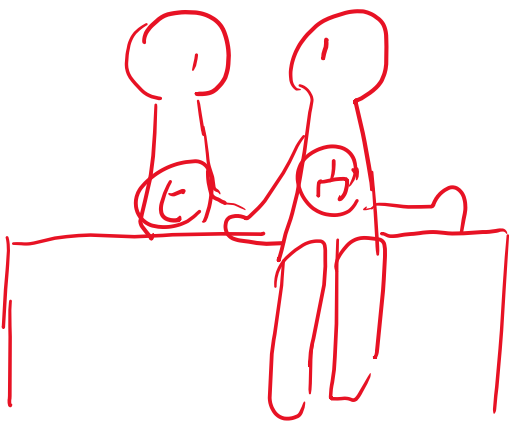
【ヒロイン「ヴィスクがいい」】

【7↓1少し離れて】

ヴィスク「僕……？」

【困って】僕はダメですよ。

だって君にあんな……」



【1】

ヴィスク「深いため息」はあ……

あんなことをして、怖がらせて、傷つけた。

僕がもつと自制心のある大人なら、

君だって、こんな目には……」

【ヴィスク、ヒロインの体の傷について医者の説明されたことを思い出して苦しくなる】

ヴィスク「君を診察したお医者様が、

君は……その……

傷だらけだったと。

グロウにやられたんですか？」

【ヒロイン「私がしていいって言ったの」】

ヴィスク「いいえ、君は許可なんて出していない。

出していたとしても——奴は一線を越えたんです。

君が許可する以上のことをした。

だから逃げてきたんでしょう？」

ヴィスク「……僕も、やつと同類だ。

保護者の立場でありながら、

君に欲望をぶつけた。

絶対に、してはいけないことなんです。

保護されている人は、

保護者の欲望に対してこう思ってしまうから。

“お世話になってるんだから、受け入れなければ”と。」

ヴィスク「だから僕も、

君のそばにいたべきじゃないんです」

1 【1】

2 ヴィスク「安心してください。

3 すぐに君の居場所を手配しますから。

4 グロウが怖いなら、

5 暴力から逃げてきた女性を

6 かくまう施設に入ってもいい。

7 【少しおどけて】結構顔は広いんです」

9 【ヒロイン「私が淫乱だから、嫌いになったの？」】

11 ヴィスク「そんな……違います。

12 僕が君を嫌いになるなんてありえない……！

13 淫乱だなんて……

14 それもグロウに言われたんですか？」

16 【ヒロイン、うなずく】

18 ヴィスク「まったく……洗脳のフルコースだな。

19 ヴィスクは潔癖だから、

20 淫乱な君を受け入れないとも言われたんでしょう。

21 もう帰る場所はないのだと思ひ込まされた。

22 でも、そんなの嘘です」

24 【1】

25 ヴィスク「確かに僕は、君を女性として愛してる。

26 けどそれよりも、家族として愛してるんです」

28 【1↓3 耳元でひそひそ】

29 ヴィスク「それに……

30 【こっそり】僕が潔癖なのは、

31 君以外の女性に対してだけだ」

33 【ヒロイン「そうなの？」】

【1】

ヴィスク「でなければ、

君にあんなことをできるはずがない。

僕も十分汚らわしくて、淫蕩な男ですよ。

僕のすべてを話したら、

きっと君は僕に近づきたくなくなる」

【ヒロイン「人形遊びの話？」】

ヴィスク「……そう。

人形遊びの話です。

僕は……【覚悟のため息】はあ……

十八歳の時に、一度だけ……。

眠っている君を抱いたんです。

それ以来、僕は女性にさわれなくなった。

あの日のことを思い出すと、

自分がおぞましくて……

ね？ 気持ち悪いでしょう。

こんな僕が、君を罵れるわけがない」

【ヒロイン「かわいそう」】

ヴィスク「僕を哀れんでくれるんですか？

傷つけられたのは君なのに。

優しいですね、君は。

昔とかわらず、本当に」

【ヒロイン、ヴィスクの頬に触れる】

【1】

ヴィスク「……オーリ？

【言い終わりにヒロインにキスされる】何をんう……！」

1 【戸惑いつつディープキス10秒程度】

2
3 【1 至近距離】

4 ヴィスク「ダメですよ、オーリ。」

5 こんなことすべきじゃない。

6 【言い終わりにヒロインにキスされる】「こんな……ッ」

7
8 【ディープキス10秒程度。ヒロインを引きはがす感じで終わらせる】

9
10 【1 少し下がって】

11 ヴィスク「わ、わかった……！」

12 わかりましたから、少し落ち着いて。

13 僕にだって、少しくらい男としてのプライドがある。

14 【笑って】女の子に押し倒されるわけにはいきません」

15
16 【1 至近距離】

17 ヴィスク「本当に、

18 自分には失望させられてばかりだ。

19 こんなこと、すべきじゃないと

20 わかっているのに……

21 嬉しくて、どうしようもない」

22
23 【軽いキスからのディープキス10秒程度】

24
25 S E : ベッドの軋み

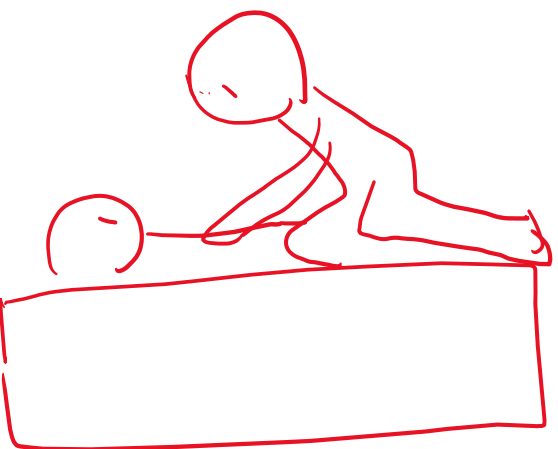
26 S E : 衣擦れ

27
28 ヴィスク「服、脱がせますよ」

29
30 S E : ボタン外す

31 S E : 衣擦れ

32
33 【ヴィスク、痣だらけのヒロインの体を見て傷つく】



1 【1】

2 ヴィスク「縄の痕に……叩かれた痣……
3 こんなにたくさん……」

4
5 ヴィスク「殺してやる……！」

6 あいつ……よくもこんなことが……！」

7
8 【ヒロイン「気持ち悪い？」】

9
10 ヴィスク「気持ち悪くなんてありません。

11 どんな姿でも、君は綺麗だ。

12 さわっても……いたくないですか？

13 体にキスをして……大丈夫？」

14
15 【ヒロイン頷く】

16
17 【ヴィスク、ヒロインの鎖骨や胸や腹などにキス10秒程度】

18
19 【1 合間にキスを織り交ぜつつ】

20 ヴィスク「ちゅ、ちゅ……

21 ごめんなさい……ちゅ……守ってあげられなくて。

22 痛かった？

23 怖かった？

24 全部僕のせいだ。ん……ちゅ……ちゅ……」

25
26 【ヒロイン、もぞもぞする】

27
28 ヴィスク「くすぐったいですか？

29 【照れて】すみません、

30 僕もほとんど初めてみたいなので。

31 眠っている君は、何をしてしても無反応だったから……

32 教えてください。

33 どうされるのがいいのか」

34

1 【ヒロイン、ヴィスクの手を握って胸にもっていく】

3 【3耳元】

4 ヴィスク「少し笑って」ああ……ここ、触ってほしい？

5 本当だ……もう硬くなってるんですね。

6 胸はこんなに柔らかいの……

7 こうやって触ると、気持ちいい？

8 ああ、その声……可愛いな。

9 もっと強く？

10 このくらい？」

11
12 ヴィスク「あ……っと。耳、弱いんですけどっけ。

13 じゃあ、舐めてもいい？

14 こうやって、胸を可愛がりながら。

15 そうしたら、君はもっと感じてくれる？」

16
17 【耳舐め30秒程度】

18
19 【ヒロイン「ヴィスクも服脱いで」】

20
21 【1】

22 ヴィスク「服？

23 ああ、忘れてました。

24 ごめんなさい。

25 手順が全然わからなくて」

26
27 S E::ジャケット脱ぐ

28 S E::クラバット外す

29 S E::ワイシャツ脱ぐ

30 S E::ベルト外す※ズボン脱がない

31
32 【ヒロイン「メガネは？」】

33

34

1 【1】
2 ヴィスク「え？ メガネ……って、
3 普通外すものですか？
4 でも、本当に何も見えなくなるので……
5 このままで、ね？」
6

7 【7 耳元】
8 ヴィスク「恥ずかしがらないで。
9 君の全部が見たいんです。
10 耳、真っ赤になってる。
11 かわいい。
12 さっきの、もっとしてほしいですか？
13 こうやって」
14

15 【耳舐め30秒程度】
16
17 【ヴィスク、ヒロインが強い刺激に慣らされ続けたせいでもどかしく
18 てもぞもぞしてるのになんとなく気づく】
19

20 ヴィスク「下の方、触りますね。
21 痛かったら言ってください」
22

23 S E…水音、ゆっくり目にねちねち
24

25 ヴィスク「っはは……すごいな。
26 こんなに濡れて……【優しく】いやらしい」
27

28 ヴィスク「ほら、わかりますか？
29 この音……
30 中からどんどんあふれてくる。
31 意地悪なこと言われるの、好きなんですネ。
32 かわいい。【耳に軽く何度かキス】」
33
34

【7↓1】

ヴィスク「もう、入れてほしい？」

僕はもう少し、

こうしていただいですけど……

足、開けますか？

そう……すごくきれいだ」

【ヴィスク、軽くトラウマフラッシュバック】

ヴィスク「一つ……お願いしてもいいですか？

名前を呼んでいてください。

僕の名前を、ずっと……」

【ヒロイン、ヴィスクの名前繰り返す】

ヴィスク「ありがとう。

【罪を吐露するように】愛してる」

SE…挿入音

【1】

ヴィスク「ああ……

君の中が……

こんなに、熱いなんて……ッ

全然違うな……あの時とは、全然……」

SE…水音&ベッドの軋み100BPMくらいで緩やかに

【1の位置で吐息のみ1分程度。ヒロインの様子うかがいつつさほど
余裕はない感じで】

1 【1 至近距離】

2 ヴィスク「ここ……気持ちいいんですか？
3 嬉しいな。

4 君が感じてくれるの、すごく興奮する。
5 手を握って。

6 キスさせてください。ん、んう……」

7
8 【キスハメ1分程度。吐息のみ。前節よりやや激しく】
9

10 S E…水音&ベッドの軋み150BPMくらいで
11

12 【ヴィスク完全に体を伏せてヒロインと密着する。】
13

14 【3 耳元】

15 ヴィスク「甘く」ねえ、これ……イってるんですか？
16

17 中、ぎゅうぎゅう締まって……
18

19 つはは……困ったな……もう、持ちそうにない。
20 ずっとこうしていたいのに……」
21

22 S E…水音&ベッドの軋み180BPM程度で、やや大げさに
23

24 ヴィスク「【うわごとのように】僕のオーリ……
25 愛してる、愛してる、愛してる……！
26

27 あ、ああ……ッ【フィニッシュ】」
28

29 【10秒程度呼吸を落ち着ける】
30

31 【3 やや下から】

32 ヴィスク「【うなじに何度かキスする】ちゅ……ちゅ……
33 夢みたいだ、こんなこと」
34

【7 やや下から】

ヴィスク「うなじにキスしながら」痛くありませんでした？

ちゅ……どこか、つらいところはない？

ちゅ、ちゅ……」

【ヒロイン「気持ちよかった」】

【1】

ヴィスク「照れて」それならよかった。

心配だったんです。

本当に、全然余裕がなくて」

SE: 抜く水音

SE: ベッドの軋み

SE: シーツの音

ヴィスク「お湯を用意してきますね。

あー……まさかこうなるとは思ってたなくて、

不手際ばかりだ。

喉も乾いてますよね。

それから……んぐ」

【ヒロイン、手でヴィスクの口ふさぐ】

【1】

ヴィスク「すみません、しゃべりすぎました」

【ヒロイン「隣で一緒に寝てほしい」】

ヴィスク「添い寝……してほしいんですか？

でも、汗をかいてますし……

あ、嫌じゃないんです！

というか、君が嫌じゃないなら、

僕もそうしたい」

【ヴィスク、ヒロインを抱き寄せて一緒にベッドに横たわる】

SE…ベッドの軋み

SE…ベッドに倒れこむ

【1】

ヴィスク「不思議な気分です。

君が僕の腕の中にいて……幸せそうで……
こういう時間を、ずっと夢に見てきた。
まるで恋人みたいだ」

【ヒロイン「恋人になろう」】

ヴィスク「なってくれるんですか？ 本当に？

重いですよ、僕は。
きっと君は受け止めきれない」

【ヒロイン「行けるところまで頑張る」】

【1】

ヴィスク「あっははは……！

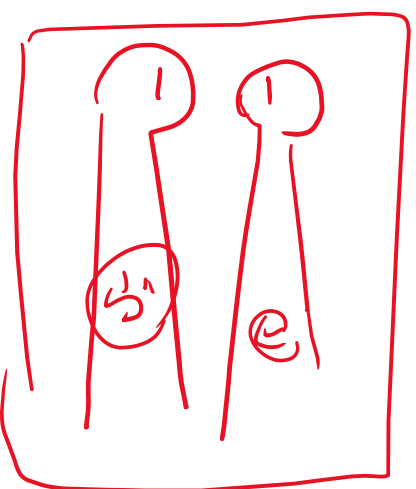
そうですね。
行けるところまで、行ってみましょうか。
二人で。

君が僕を嫌いになるまで。」

【ヒロイン「嫌いになるかなあ」】

ヴィスク「少なくとも、

僕から君を嫌いになることはありませんから、
【笑って】君が僕を嫌わなければ、
そのまま添い遂げるようになりますね」



1 ヴィスク「そうならたら、どんなにいいか。
2 僕は目覚めの王子様にはなれなかったけど、
3 ずっと、そばで君を待っていました。
4 【晴れ晴れと】やっとこれが言える。
5 おはよう、僕の眠り姫。【唇にキス】」
6
7
8
9

END